郷土の文化財探訪バスツアー　第二弾

豊後高田の戦国

じっくり散策コースのしおり

佐野鞍懸城の高石垣

平成２６年１１月２９日（土）

豊　後　高　田　市　教　育　委　員　会

本日の行程

０９：１５　豊後高田市役所高田庁舎東側駐車場　集合、受付

０９：３０　バスで出発、屋山城（長安寺駐車場から徒歩）へ。

０９：５０　長安寺駐車場、準備体操、屋山城へ

１０：４０　屋山城登頂。解説。

・虎口の仕掛け（竪堀・花弁状竪堀）	・２つの掘切
・屋山城石碑	・ショウケが鼻からの眺望

１１：４５　長安寺駐車場着。

１２：００　昼食（こっとん村）

１２：５０　こっとん村出発

１３：００　佐野鞍懸城付近の駐車場、佐野鞍懸城へ

１３：３０　佐野鞍懸城登頂。解説。

・戦国時代の石垣・列石	・掘切状遺構

１４：００　佐野鞍懸城付近の駐車場着。

１４：３０　霊仙寺駐車場着、隠れ洞穴へ。

１５：００　隠れ洞穴到達。解説。

・隠れ洞穴伝説

１５：３０　霊仙寺駐車場着。

１６：２０　豊後高田市役所　高田庁舎東側駐車場着。

中世城郭って何？

お城って何？

◇難しく言えば「軍事的な目的を持って造られた拠点」のこと。

　〇〇城　　〇〇館　　〇〇砦（塞）　〇〇殿　　〇〇屋敷　　などの呼名

「白塗り漆喰塀」「天守閣」「水堀」のイメージは・・・

　上の３つのイメージは、いわゆる近世城郭（江戸時代）のイメージです。戦国時代のお城には、まずありません。戦国時代の城跡で見ることができるのは、兵士を配備する**曲輪**、そして敵の侵入を防ぐ**土塁**・石塁・**空堀**などです。

　安土桃山時代になると、築城・治水技術が向上し、高層の天守閣が発明され、白塗りの美しい城が各地で作られるようになります。

　それと比べると中世の城郭跡は、何だか地味ですが、歴史が古く、地形を活かしており、地域性に富んでいるので、**遺跡としては価値が高い**のです。

中世の山城のイメージ

中世城郭って身近にあるの？

中世城郭は山に残りやすい！

　城郭は、防衛に優れた山城から、交通などを重視した平山城・平城へと変化していきました。中世にも平地に城を作ることはありましたが、ほとんどの平山城・平城は近世城郭や近代住宅などへの改変・破却をされてしまいました。また、人工的に造成した部分が多く、比較的脆いのです。

　一方の山城は、近世城郭の立地に適さず、自然の地形を利用したものも多く、また人の出入りが少ないため、遺構が残りやすい傾向にあります。

県北は山城の宝庫

　大分県は、古文書の豊富な地域である事から、築城年代が割り出しやすく、多くの**中世の城郭**を見ることができます。

　豊前地域には、鎌倉時代から戦国時代まで領土を替えない小規模な武士が多く集まり、宇佐市地域では宇佐神宮神官系の武士が多く城を作りました。

　国東半島には、国境付近を任された大友氏家臣たちによって、多くの山城が築かれています。

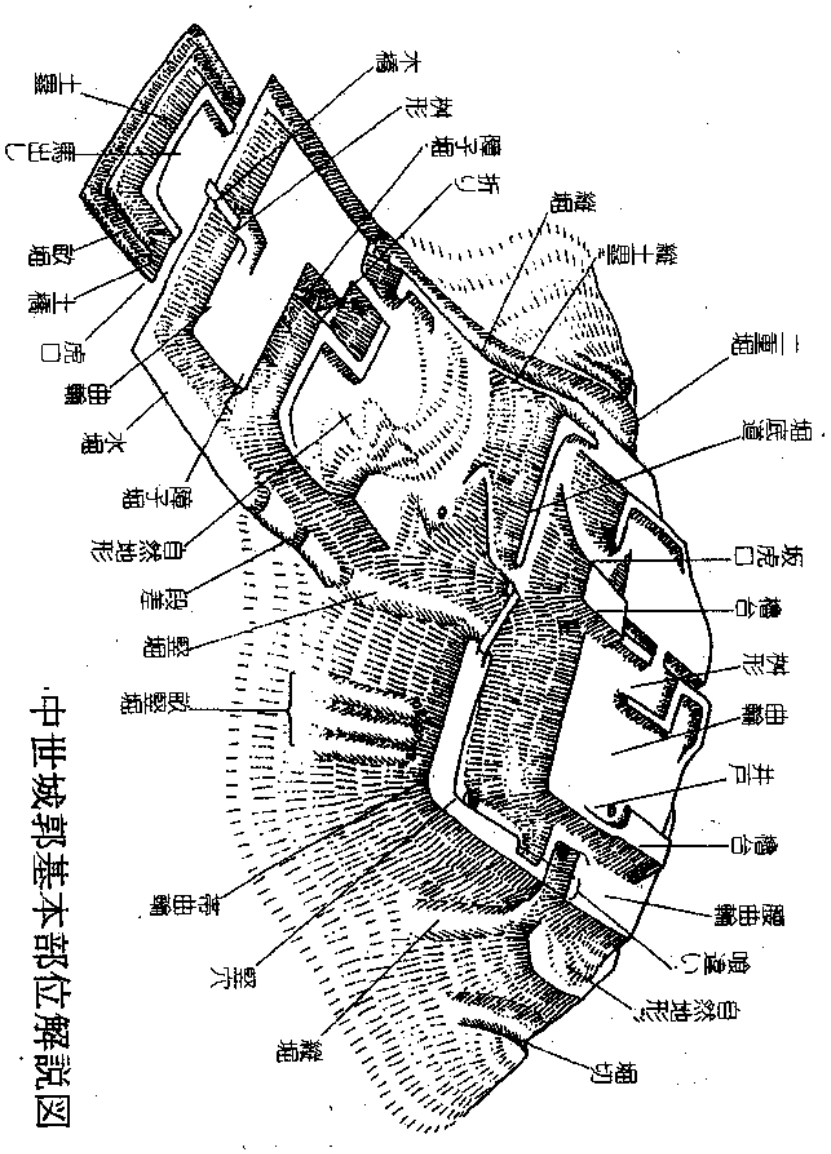
代表的な県北の中世山城

佐田城

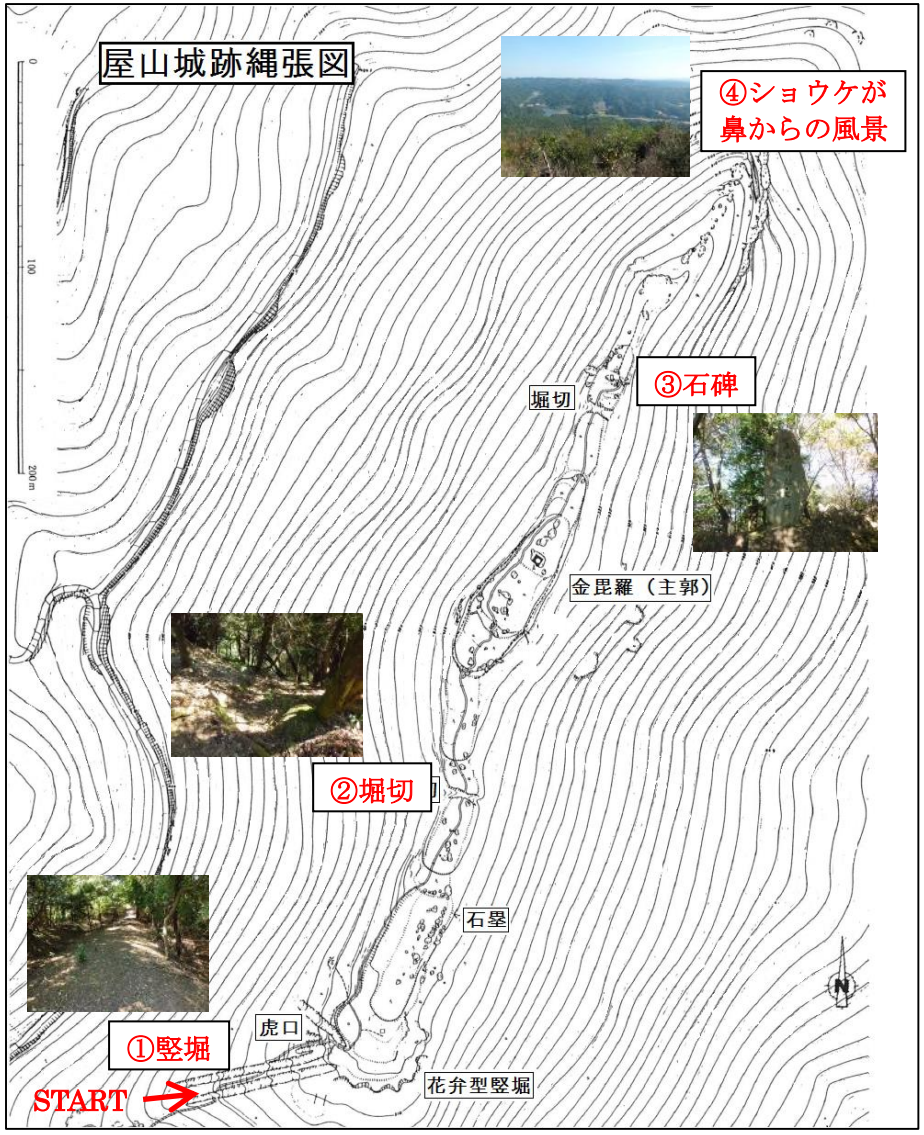
妙見嶽城

烏帽子岳城

中世城郭の基礎知識


虎口
馬出
土塁
櫓台
水堀
横矢掛り
竪堀
土塁
堀切
櫓台
土塁
竪堀
竪堀
土塁
土塁
土塁
竪堀
竪堀
竪堀

☆縄張り図＆見所



佐野鞍懸城（石垣の城）

中世城郭らしい石垣

佐野鞍懸城の石垣は、付近の筋目の入った岩を割って、薄いブロック状にして小口積み（レンガ積み）をしている部分が多く残っています。ほとんど石に加工を施さず、はぎ付け・打ち込みをしない石垣の積み方を**野面積み**といいます（大分県では戦国時代に多く見られます）。

各所に**布目崩し**（石垣の布目を通さない）、**角落とし**（角をわざと凹ませて角を多く作る）、**算木積み**（角の強度を高めるために石を交互に組む）等で、石垣の強度が増されています。

城を守る工夫いろいろ（佐野鞍懸城編）

・横矢掛り：城に登る経路を蛇腹状にして、横から矢を射掛ける仕掛け
・堀切：敵の城郭への侵入を防ぐために、城郭を横に仕切る
・土橋：堀切を渡る唯一のルートとして、幅数十センチ程度の土橋を造る
・角落とし：防御側から死角になる角を無くすための造り
・露頭を背に：逆側から攻めることが難しくなる

佐野鞍懸城の歴史

鞍懸城の史料的初見は正平四年（1394）であるが、室町時代の古文書には「奥畑鞍懸城」と見える事から、これは奥畑にある別の鞍懸城とされています。

また、鞍懸城は**田原親貫の乱**の中心であり、天正年間には多くの古文書に現れます。城山から東の地域は**矢原**と呼ばれる地区であり、当時の合戦場が想定されます。

総石垣の城は織豊期に発達する築城法であり、石垣の城として知られる佐野鞍懸城も、中世には一部しか石垣がなかったと考えられます。上部の大型の石で造られる高石垣は、黒田・竹中時代に造られたと考えられています。

☆縄張り図＆見所

隠れ洞穴　に行こうと思ったのですが…

中山仙境の険しい道のり

隠れ洞穴は、香々地・夷谷の行者道「中山仙境」の最終部にあります。遡れば県道から１ｋｍほど、岩山に入る前とあったので行けると思っていたのですが･･･

登ってみたら、このバスツアーで行くには険しすぎたようです･･･。

「隠れ洞穴」伝説

戦国の世も終わりのころ、鎌倉時代から豊前国を統治していた宇都宮氏の当主・鎮房は、黒田官兵衛・長政に謀られて中津城で命を落とします。その時の宇都宮家臣の残党たちが、この隠れ洞穴に隠れていたという伝説があります。

隠れ洞穴（左上）と、立て籠もった家臣を褒め称える石碑（右上）、中に祀られている仏像群（左）

本日の行程（雨）

０９：１５　豊後高田市役所高田庁舎東側駐車場　集合、受付。
０９：３０　バスで出発、真玉氏居館跡へ。

０９：５０　大村グラウンド、真玉氏居館跡解説。

・土塁状遺構	・水堀状遺構
・真玉氏墓地	

１０：３０　大村グラウンド発。

１０：４０　越路五輪塔群立寄。解説。
１１：００　霊仙寺着。解説。

・実相院国東塔	・隠れ洞穴の伝説

１１：３０　霊仙寺発。

１２：００　こっとん村にて昼食。
１２：４５　こっとん村発。

１３：００　長安寺着。解説。

・長安寺宝篋印塔	・身濯神社

１３：３０　長安寺発。

１３：４０　大力着。持地庵へ。
１４：１０　持地庵発。

１４：２０　豊後高田市役所　高田庁舎東側駐車場。

真玉氏居館跡（水堀の平城）

珍しい中世の平城遺構

前の説明で、中世城郭は山に残りやすいと話しました。真玉氏居館跡は戦国時代の平城遺構が残っているという点で貴重であり、県内の城郭遺構では唯一の指定文化財（県）になっています。

近世に耕作による改変を受けず、近代には真玉寺が移設されたおかげで開発がなされなかった事が、城跡の保護につながりました。

城を守る工夫いろいろ（真玉氏居館跡編）

・土塁：高さ１ｍほどの大型土塁が張りめぐらされています。
・水堀：雨水を溜める原始的な水堀が残されています。
・貴戸の前：貴戸は城戸に繋がり、石橋の虎口であった可能性が高いです。

真玉氏墓地

真玉氏居館跡の付近には「寺原（テラノハル）」という地名があり、旧真玉寺があったとされます。寺原には中世真玉氏の冥福を祈る国東塔などが多く残っています。

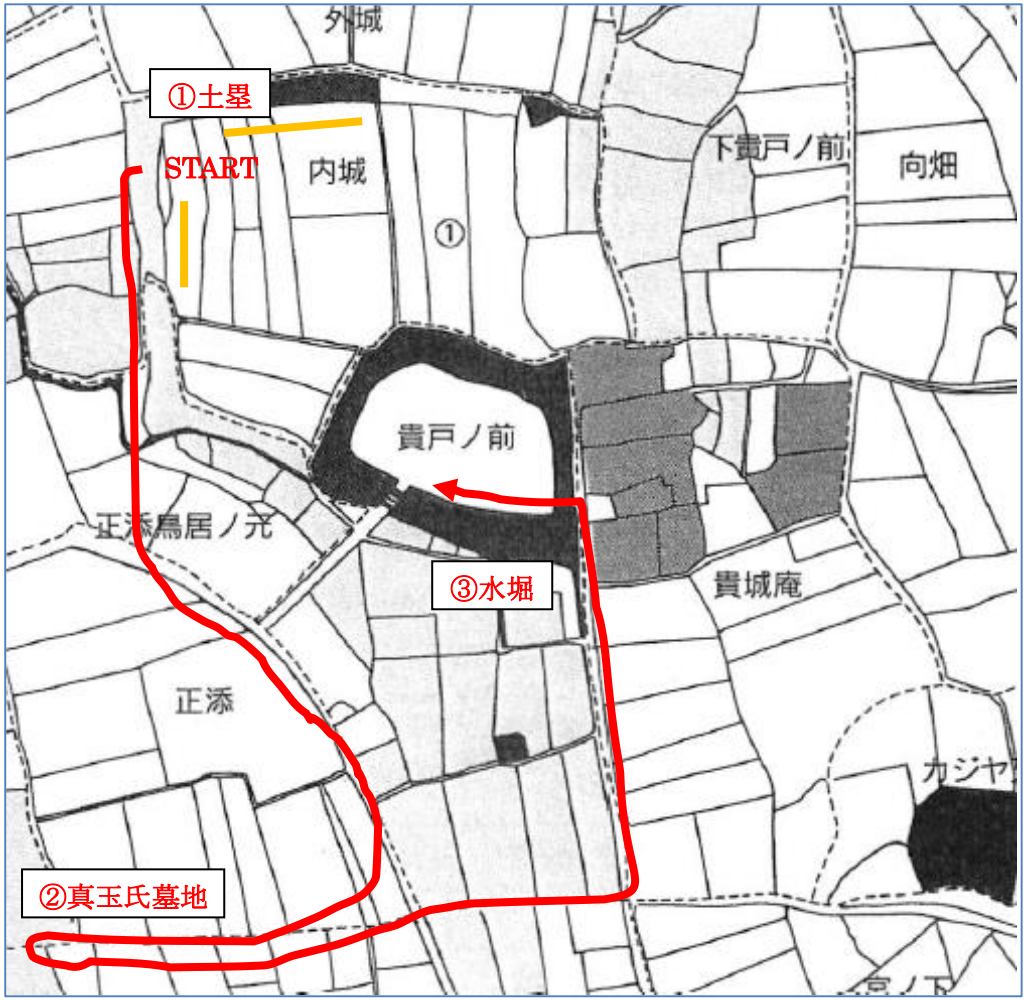
真玉氏居館の歴史

真玉地域には、真玉荘荘官が出自と考えられる真玉氏が長らく活動していました。この真玉氏は鎌倉・室町初期まで、地頭としての活動が見られる武士で、しばしば前期真玉氏と呼ばれます。

一方、南北朝時代になると大友氏の勢力が強くなり、家臣の木付氏が真玉に領土を授かります。そして真玉氏と名乗って、前期真玉氏を追い出してしまいます。これが後期真玉氏と呼ばれる一族で、真玉氏居館跡も後期真玉氏の拠点であるとされています。

中世武士の終焉の地（越路五輪塔群＆隠れ洞穴）

☆縄張り図＆見所



◎越路五輪塔群

越路五輪塔群は長小野にある五輪塔群で、中世真玉氏終焉の地として知られます。

「真玉氏系図」の最後の当主「統寛」の項目によると、秀吉の小田原征伐に駆けつける途中、家臣の山田兼佐が急に狂乱し、家臣同士の斬りあいになり、統寛を含む真玉武士は多く死に絶えたといいます。

今でもおびただしい数の五輪塔が残されており、当時の激しい戦いの様子がうかがい知れます。

◎「隠れ洞穴」伝説

戦国の世も終わりのころ、鎌倉時代から豊前国を統治していた宇都宮氏の当主・鎮房は、黒田官兵衛・長政に謀られて中津城で命を落とします。その時の宇都宮家臣の残党たちが、この隠れ洞穴に隠れていたという伝説があります。

耳川の戦い関連遺跡（長安寺宝篋印塔＆持地庵）

耳川の戦いって？

島津氏の躍進に危機感を覚えた大友宗麟は、天正六年（１５７８）、豊後・豊前両国から兵士をかき集め、大軍を率いて日向国に乗り込みます。北浦辺衆（豊後北部の武士）を率いて吉弘鎮信も加わりました。

まず大友軍は、無鹿（現延岡市）に陣を張り、島津氏に恭順する土持氏を攻めます。戦況は各地で大友方の勝利に終わり、大友軍は悠々と進軍します。しかし、大友軍は山田有信らの立て籠もる小城“高城”（現木城町）に苦戦します。そうこうしている間に、島津軍本隊が高城に救援に駆け付けたのです。

大友軍は高城川を隔てて対岸の島津軍を攻め立てます。緒戦、大友軍はぐんぐん進軍しますが、それは島津軍の得意戦法「釣り野伏」の罠でした。

敵陣に深入りした大友軍は左右からの伏兵によって挟み撃ちに遭います。

さらに逃げ込んだ先は、深いダゲキガ淵。大友軍は島津軍の鉄砲の格好の的になってしまいました。

都甲地域に残る耳川の戦いの傷跡

耳川の戦いには、都甲・田染・真玉などの武士も総動員され、その多くが故郷に帰ることなく、討死しました。

都甲地域では、激戦の天正６年１１月１２日の銘を持つ石造物がいくつか残っています。大力の持地庵には、板碑が残されており、その大きさから吉弘家臣大力氏の板碑だと言われています。また、払田の都甲氏墓地にも同日の銘が残されており、参戦した都甲氏の人物のものと言われています。

各地に残された武将の妻たちは「日向後家」と呼ばれました。

耳川の戦いを今に伝える石造物

長安寺宝篋印塔

持地庵板碑